



深谷 寿一

ひたちなか市議会

(ルネサスグループ連合/那珂地区支部)

## 港区の優位性を積極的にPRしていく



整備が進められた茨城港常陸那珂港区

茨城港常陸那珂港区（ひたちなか地区開発）は、北関東自動車道が港に直結した日本で唯一の港と高速道路を一体として計画された港湾です。

平成元年に港湾建設に着手し、その後、平成18年に災害時にも対応可能な水深7.5メートル耐震強化岸壁が供用開始しました。さらに、平成21年には、水深9メートル岸壁、平成28年には、水深12メートル耐震強化岸壁が供用開始となり、令和3年に新たな水深12メートル岸壁の一部が供用開始しました。現在は水深12メートル岸壁の残りの部分の整備が進められています。

港湾施設の整備が着々と進められ、港湾機能の強化や定期航路の拡充とともに、近年の取扱貨物量は順調に増加傾向を示しています。また、建設機械メーカーの日立建機（株）等も進出し、建設機械の輸出拠点として発展を続けているほか、物流、倉庫業の企業も集積されています。

日新クラブとしては、今後もポートセールスや各種セミナー等において本港区の優位性を積極的にPRするとともに、コンテナ貨物集荷促進事業の促進と取扱量のさらなる増加に向けて、取組みを推進していきます。

### 幹事長の主張

## 「真面目に働く者が報われる社会の実現」に向け人に寄り添った対応に努める



日立グループ議員団幹事長

澤田 秀夫

安来市議会（日立金属労組/安来支部）

す。しかし日立グループ議員団として自覚を持ち議員同志が連携を密にして活動の強化を図っていきます。

コロナウイルス感染症が猛威を奮い全国各地で終息が見通せない中、欧州でのロシア・ウクライナの問題による原油価格や物価の高騰など働く者にとって生活環境は厳しさが増えています。

私たち日立グループ議員団は、「真面目に働く者が報われる社会の実現」に向けて、組織はもとより地域においても人に寄り添った対応に努めていきますので、引続き各議員に対するご支援とご協力をお願い致します。

### 日立グループ議員団として自覚を持ち活動の強化を図る

この度、7月に開催された日立グループ議員団総会において幹事長を拝命しました。これまで諸先輩方が築いてきた歴史と伝統を継承し日立グループ議員団会議の活動方針を最重要課題として展開していきたいと考えております。

現在、浅野哲会長を筆頭に27名の議員で構成していますが、6年前には33名の議員が在籍していました。組織人員の減少や後継者不足の影響により、戦うこと自体を断念せざるを得なかった状況などから議員数は減少の一途を辿っており

### 2022年12月 茨城県議会議員選挙

## ご支援よろしくお願い致します



高安 博明  
日立労組  
日立国分支部



齋藤 英彰  
日立労組  
大みか支部



二川 英俊  
日立労組  
水戸支部

### 今号の読みどころ

議員団レポート…(日立市議会、東海村議会、秦野市議会、沼津市議会、ひたちなか市議会)  
P 4 幹事長の主張…「真面目に働く者が報われる社会の実現」に向け人に寄り添った対応に努める  
浅野衆議院議員・国政レポート…職場と組織内議員の協働 その日常化こそが次の活路をひらく鍵 P 2~4

日立市で街頭活動



日立グループ議員団会長  
衆議院議員 浅野 さとし

## 職場と組織内議員の協働 その日常化こそが 次の活路をひらく鍵

### 浅野さとし衆議院議員 国政レポート

高萩地  
党茨城  
5区高  
萩市での  
国政報告会



国会見学の様子

### 第26回参議院議員選挙を終えて

7月10日に投票が行われた第26回参議院議員選挙では、矢田わか子さんが電機連合の代表として2期目に挑戦し15万9,929票で党内4番目の得票を獲得したものの、国民民主党が獲得した比例枠は3枠に留まり、矢田さんは当選を果たすことができませんでした。3年前の石上としおさんに続き組織内候補を落選させてしまったことは電機連合として極めて深刻な事態です。今回の結果を猛省し、あらゆる取組みを総点検し、改善策を見出し実行していかなければなりません。

### 選挙は「心の熱伝導」

私は以前、選挙は「心の熱伝導」だと教わりました。候補者はもちろんですが、候補者を支える組合員の皆様も一緒に心を熱く燃やし、その炎を周囲に広げていく取組みを行うことが不可欠であるという趣旨です。ですが、現在のコロナ禍の中で在宅勤務やオンライン会議が日常化し、社内行事など直接会話する機会が著しく減少してしまいました。そのため、候補者がどれだけ熱い思いをもっていても、それを伝える機会が限られているのです。このような状況の中でも候補者と職場の皆様が心ひとつに選挙に臨める環境をつくるために、私は今こそ職場の皆様と組織内議員の連携の在り方を今一度考える必要があると考えます。

### オンライン等も活用した職場と組織内議員との協働を

「仲間」という言葉をインターネットで引くと「心を合わせて何かを一緒にするという間柄をかなりの期間にわたって保っている人物」(出典「Oxford Languages」)と出てきます。この「仲間」の定義の中で、「何かを一緒にする」「かなりの期間にわたって」の部分がとても重要です。組織内議員が様々な職場の皆様と「何かを一緒にする」ことは、以前なら難しい事だったかもしれません。ですが今はコロナ禍です。オンラインで大抵の事はできますし、また同時に多様な場所にいる皆様と同時につながり、共同で作業を行うことも可能になりました。次に「かなりの期間にわたって」は、選挙の時だけでなく日常的に行うことが必要だと解釈できます。コロナ禍は、職場と組織内議員の接触機会を著しく減少させました。ですが、それはあくまでも「これまで通りのやり方」を続ける場合のことなので、その前提を変えるべき時が来ているのだと思います。従来の取組みに加えてオンライン等も活用した職場と組織内議員の協働、そしてその日常化こそが次の活路をひらく鍵になると確信します。

最後に、日立グループ議員団では今後、茨城県議会議員選挙やかすみがうら市議選、統一地方選挙など多くの選挙が控えています。職場と組織内議員が、上記のような「仲間」にさらに近づく方法を早急に検討し、行動しなければなりません。今回の敗北を乗り越えて、日立グループ連合や電機連合がさらに強固な組織力を発揮するためにも、皆様のお力添えを心からお願い申し上げます。



市政だより

日立市におけるシティプロモーション事業の推進



白石 敦  
日立市議会  
(HiICS労組)

人口減少対策として  
移住定住促進に  
取り組む

日立市においては、自然環境の豊かさと本市固有の文化、伝統、産業などに加え、本市にまつわる神話と伝説及び全国初や唯一のものや場所など、他自治体に比べて独自性や優位性を持つ地域資源を「ひたちらしさ」と呼んでいます。これらの「ひたちらしさ」については、民主クラブの提案により、それぞれのテーマに沿った冊子（ひたち物語）が作成され、広く情報発信するシティプロモーション事業が推進されています。

そのテーマの一つ「モノづくりの礎」では、本市発展の原動力になった日立グループの挑戦の歴史や創業の精神を未来に伝えるため、令和3年11月にオープンした日立オリジンパークが紹介されています。日立オリジンパークは、大みかクラブと大みかゴルフクラブの敷地内に小平記念館と創業小屋が復元された企業ミュージアムで、一般の方にも利用されており、創業の



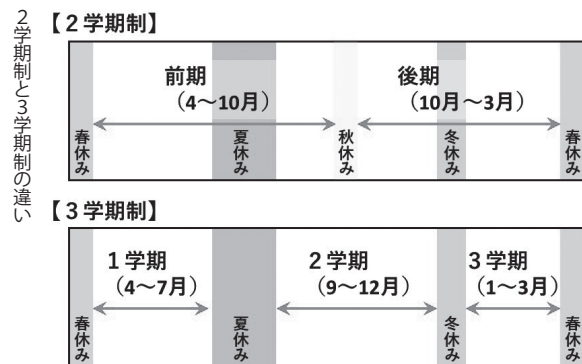
ひたち物語「モノづくりの礎」

時代とも言われている現代においては、この場所で創業の精神を学び、創業者が育っていくことに期待を寄せる多くの声があります。

民主クラブは、今後ともシティプロモーション事業を推進し、創業者育成と新規雇用創出により、本市が人口減少対策として掲げる移住定住促進に取り組んでまいります。

2学期制の導入に向けた方針決定

村政だより



越智 辰哉  
東海村議会  
(日立労組/日立国分支部)

子どもの学びの時間と先生方と向き合う時間を確保

近年、学校現場を取巻く環境が大きく変化するなか、教職員のはたらきかた改革及び負担軽減のあり方が幅広く議論されています。

従前から、いわゆる3学期制による学校運営では、年3回の通信簿の作成や始業式・終業式などの行事対応により、児童生徒の学習時間の確保が課題となっており、さらに新型コロナウイルス蔓延にともなう感染拡大防止への対応やオンライン授業への対応など、学校現場の負担がさらに増加する状況等から、

2学期制を導入する自治体が増えています。

茨城県内においても、44自治体のうちすでに19自治体で導入されており、東海村も2学期制の導入に向けた方針を決定し、現在は保護者や関係者などの意見集約を行なったうえで、令和5年度からの実施に向けた準備を進めています。

今後も、子どもたちの学びの時間及び先生方と向き合う時間を確保しながら、子どもたちが健やかに成長する環境を整えていきたいと思います。

時代に合った「議会改革」

市政だより

第3号 通年会期制って年中無休？



議会改革の必要性を知ってもらうためのマンガ（自作）

通年会期制の  
導入に取り組む



八尋 伸二  
秦野市議会  
(日立労組/神奈川県西支部)

Withコロナが到来した今、情報共有はFAXや紙などから、オンラインやメール、SNSの活用へと変化しましたが、7年前に取り組んだ議会改革によるICT化（タブレット導入など）が、大きく役立つことになりました。議会改革とは、時代に合った議会の形へと変革することだと改めて感じました。

私は、コロナ禍という厳しい時代だからこそ、議員個人による問題解決ではなく、市民に近い立場である議員が議会全体の取組みとして政策を立案する時代になっていると考え、通年会期制の導入に取り組んできました。

通年会期制では、議会として政策立案が出来るようになり、市民にとってもより有効な提案が出来ます。具体的には、常任委員会毎に所管する市内の課題を挙げ、先進的に取り組んでいる自治体を視察します。視察で得た情報を基に本市の課題解決に繋げる循環をつくり、常任委員会毎に纏めた解決策を議長から市長へ「意見書」として提案し、改善を促すというものです。

また、市民に議会改革の必要性を知ってもらうことも重要と考え、マンガ（自作）を市公式SNSで発信するなどの取組みも行ないました。これからも、時代に合った議会の形をめざしたいと思います。

市政だより

「ぬまづ昔ばなし」再編出版、「折り畳み式ゴミかご」制作



深田 昇  
沼津市議会  
(明電舎労組/沼津支部)

地域の方々とともに  
課題解決に取り組む

沼津市に残る地域独自の昔ばなしを未来に繋げていきたいとの思いから、半世紀前に当時の社会科の先生方により制作された「ぬまづ昔ばなし」を再編出版し、市内の小中学校に無償配布する取組みを進めています。8/29（月）には、第一巻を発売・寄贈することが出来ました。制作した書籍は、読み聞かせや授業・ウォークラリーなど、学校現場や各種団体と連携した活用も進めていく予定です。市立図書館や地域の方々が集う拠点である地区センターの図書室にも寄贈しているほか、誰でもご覧いただけるよう、ウェブサイト（<https://e-monogatari.art/>）で公開しています。是非ご覧ください。

また、障害のある方々が個々の得意を活かして地域に必要なとされている仕事をする枠組みづくりの一環として、自治会の皆



様が日常的に使用されている「折り畳み式ゴミかご」の制作に取り組んでいます。今年度中に形に出来ればと考えています。志ある地域の方々、主体的に地域の課題解決を図ろうとする取組みは大変重要だと考えています。引続き、鋭意取り組んでいきます。